

メッセージアウトライン ローマ10：14～21「神の呼び声」

[14-15]「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方をどうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。』」

聞いたことのないものを信じるわけにはいかない。しかし、ユダヤ人たちは「宣べ伝える人」すなわち、先にイエス・キリストを信じたクリスチャンたちによって福音を聞いていたのである。ペテロをはじめとする十二弟子たち、そしてパウロもまたクリスチャンとなった多くの人々が福音を伝えた。それゆえユダヤ人たちは聞いているのである。

「遣わされる」とは神によって派遣されるという意味。これは使徒、教師、伝道者だけでなく、すべてのクリスチャンに当てはまる。一人一人は救いに召され、神からのすばらしい救いを宣べ伝えるために、家庭、職場、学校、地域社会等の各々の持ち場に遣わされていると考えることができる。これはすばらしい特権である。15節ではイザヤ52:7のことばが引用されている。

[16]「しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。『主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか』とイザヤは言っています」

すばらしい救いの福音が宣べ伝えられたのに多くの人々は従わなかった。パウロはイザヤ53:1から引用してその不信仰の姿を描写している。

[17]「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです」

これは今まで述べてきたことの要約である。信仰の前提はキリストについてのことば、福音を聞くことであり、聞くことによって信じるのである。

[18-21]18節でパウロは詩篇19:4を引用し、福音は当時知られていた全世界にまで届いており、当然ユダヤ人たちには聞こえていたということを示す。19節ではパウロは新しい質問を提起し、イスラエルは聞いていたけれども知らなかったのか、信じることをしなかったのかと問う。これに対する答えとして、まず申命記32:21のモーセのことばが引用される。神は異教徒が救われることによってイスラエルのねたみを引き起こされた。その目的はイスラエルの不信仰を反省させ、福音に導くことにあった。しかし彼らはそうしなかった。20節ではイザヤ65:1が引用され、神は神を熱心に求めなかった異邦人にご自身を現されたことが述べられる。このことはイスラエル民族の不信仰によってもたらされた歴史的事実であった。それでは神は不信仰なイスラエルを見捨てられたのか。決してそうではない。21節でパウロはイザヤ65:2を引用して、神は不信仰、不従順のイスラエルが再び神の愛のふところに帰ってくるように、休むことなく、愛の手を差し伸べて待っておられることを教える。「手を差し伸べる」とは具体的には福音を宣べ伝える働きによってということである。